

町村合併と公共公益施設の立地動向との関連
— 島根県仁多郡奥出雲町の事例研究 その3—

町村合併 公共公益施設 施設配置
中心集落

- 正会員 ○三島 幸子*
- 正会員 今富 良介**
- 正会員 牛島 朗*
- 正会員 佐々木 英臣**
- 正会員 中園 真人***
- 正会員 細田 智久****

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

その1から3では奥出雲町におけるたたら産業の変遷や明治・昭和の町村合併の変遷を整理し、明治の町村合併後の自治体別の地域特性・人口変化を明らかにし、その4では児童数の変化及び小中学校の統廃合プロセスを明らかにした。本論では奥出雲町における平成の町村合併を含めた町村合併の変遷を整理し、公共利便施設の立地特性との関連性を明らかにし、今後の地域コミュニティの在り方を検討する際の基礎的知見を得ることを目的とする。

1.2 研究方法

本研究では公共利便施設の情報をタウンページより収集し^{注1)}、ゼンリン地図及びgoogleマップを用いて所在地を確定した。また、地図はGISを用いて作成した。

1.3 施設の分類

公共公益施設^{注2)}に関して、明確な定義がないため本論では総務省「公共施設及びインフラの更新費用推計ソフト」仕様書の施設分類^{注3)}から行政関連施設、教育関連施設、医療福祉施設に分けて施設を抽出した(表1)。さらに、生活に最低限必要と考えられる施設を業務系施設、交通系施設に分類し抽出した^{注4)}。

2. 奥出雲町における合併の変遷

明治の町村合併前の自治体数は25であったが、合併後は9に減少している^{注5)}(図1)。その後、昭和の町村合併により1955年に三成・三沢・阿井・布施・亀嵩村の5村が合併して仁多町になり、1957年に横田町、八川・馬木・鳥上村の1町3村が合併して斐上町、翌年に横田町となった。そして、平成の町村合併により、2005年に現在の奥出雲町となっている。

3. 行政関連施設の分布

本章以降は公共利便施設の分布についてみていくが、コミュニティ単位を明らかにするため、明治の町村合併後の区分又は昭和の合併後の区分を基本単位とする。

3.1 町役場

行政関連施設配置図を図2に示す。町役場は三沢村、旧横田町^{注6)}に位置する。奥出雲町は横田町と仁多町が対

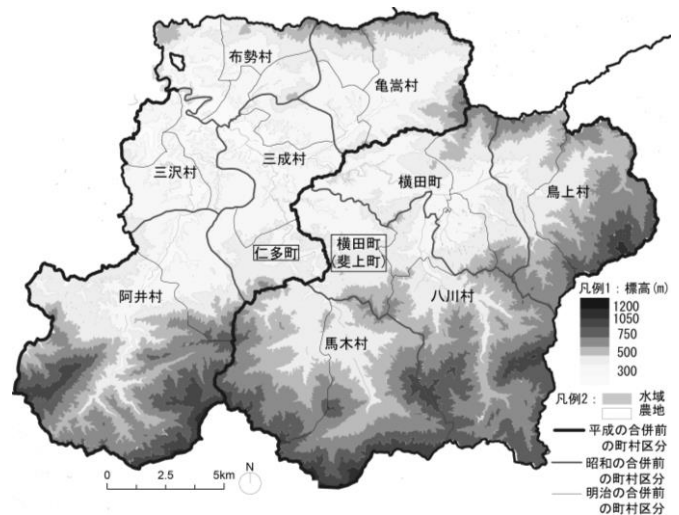


図1 奥出雲町における町村合併の変遷

表1 公共公益施設の分類

大分類	中分類	小分類
行政関連施設	行政系施設	町役場、交番・駐在所
	市民文化系施設	公民館
	社会教育系施設	図書館、資料・博物館
教育関連施設	学校	小・中学校、高等学校
	子育て支援施設	保育所、子育て支援センター、放課後児童クラブ
医療福祉施設	高齢福祉施設	特別養護老人ホーム、グループホーム、通所介護施設、訪問介護施設
	障害者施設	入所系・通所系・訪問系施設
	医療施設	病院、診療所
業務系施設		郵便局、銀行・JA
交通系施設		鉄道駅、バス停、ガソリンスタンド、道の駅

注) 中分類は総務省の仕様書の施設分類である。

等合併しているため、横田庁舎では税務・農林土木・建設・子育て支援課、教育委員会等、仁多町舎では総務・企画財政・健康福祉課等と機能が二分化された2拠点型である。また、役場の出張所はなく昭和の町村合併後の町村区分を基本単位としていることが分かる。

3.2 交番・駐在所

奥出雲町は雲南警察署の管轄内にあり、広域交番は三成村、駐在所は旧横田町、三成・阿井・亀嵩・八川・馬木・鳥上村に位置する。大半の自治体に1ヶ所ずつ駐在所が配置されているが、三沢・布施村は三成村が広域交



図2 行政関連施設配置図



図3 教育関連施設配置図

番であるため駐在所がないことが考えられる。また、全て比較的平野部に位置している。

3.3 公民館

公民館は明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置する。また、全て駐在所の近くに位置している点は大きな特徴である。そのため、公民館が明治の合併後の町村区分の集落中心と考えられる。

3.4 図書館、資料・博物館

図書館は三成村のみ位置する。また、資料・博物館はたたらに関連したものを中心に多くの施設が点在している。横田町は集落中心に集中する一方で、仁多町は阿井、

布施村の集落中心から離れた地域に立地している。

4. 教育関連施設の分布

以下、公民館を集落中心に設定し、集落中心との距離関係も含めて分析を行う。

4.1 小・中・高等学校

教育関連施設配置図を図3に示す。小学校は明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置し、三成村のみ、2ヶ所位置する。また、全ての小学校が集落中心付近に立地している。中学校は旧横田町、三成村に位置し、小学校よりは離れているが、それぞれ集落中心付近に立

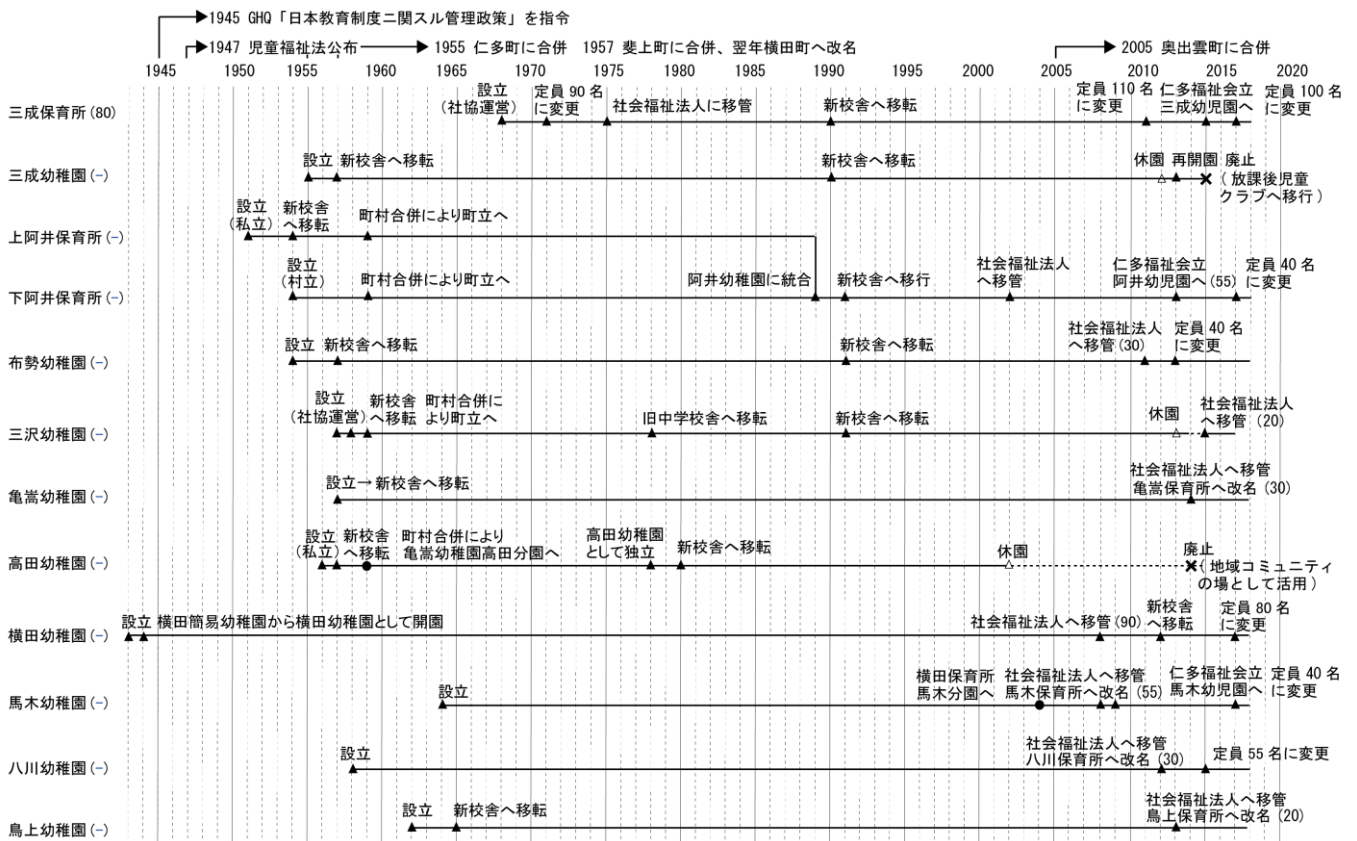


図4 保育所の変遷



図5 医療福祉施設配置図

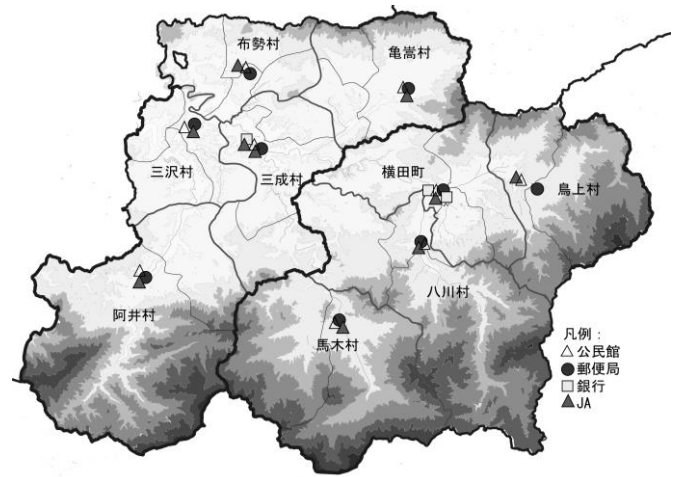


図6 業務系施設配置図

地している。

高等学校は三成村に1ヶ所のみ位置し、集落中心に立地している。そのため、小学校は明治の合併後の町村単位、中学校は昭和の合併後の町村単位、高等学校は平成の合併後の町村単位と段階的に通学範囲が拡大している。

4.2 保育所

保育所も小学校と同様に明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置し、集落中心付近に立地している。また、保育所の変遷を図4に示す。旧横田町では1943年に奥出雲町で初めての保育所が設立された。その後は仁多町の自治体で1950年代に施設整備が進められ、全ての小学校の空き教室を活用し、園長は小学校の校長が務めていた点で特徴である。三成・阿井・亀嵩村では2施設整備された。数年後に全ての保育所が独立している。その後、横田町の他の自治体でも保育所が整備され、全ての明治の合併後の各自治体で施設整備が完了した。

1975年に三成保育所が社協運営から社会福祉法人運営へ移行し、1989年に上阿井保育所及び下阿井保育所が統合し、阿井幼稚園になった。1990年代に仁多町において保育所の建て替えが行われている点は特徴である。2000年以降は自治体から三成保育所運営の社会福祉法人へ運営が移行し始め、2015年に全ての保育所の運営が移行された。その間に休園を経て2ヶ所の保育所が廃止し、現在は9ヶ所である。保育所は明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置し、集落中心付近に立地している。

4.3 子育て支援・学童保育施設

子育て支援施設は横田町と三成村のみであり、2施設とも保育所に併設している。学童保育施設は明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置し、三成村以外は全て保育所に併設している。そのため、児童福祉施設は保育所を中心に機能していると考えられる。

5. 医療福祉施設の分布

5.1 病院・診療所

医療福祉施設配置図を図5に示す。病院は横田町、三成村にあり、集落中心付近に立地している。特に三成村の診療科目は多く、病床数も多い。診療所は横田町、鳥上・八川・馬木・三成・阿井・亀嵩村に位置する。大半が集落中心付近に立地しているが、阿井・亀嵩村のみ少し離れた場所に立地している。立地特性が駐在所と同じである。

5.2 高齢者施設

高齢者施設は横田町に4ヶ所、八川村に2ヶ所、三成村に4ヶ所、三沢村に1ヶ所、亀嵩村に1ヶ所の計12ヶ所と多くの施設が整備されている。比較的人口規模の大きい昭和の合併後の町村の集落中心付近に集中立地する傾向がみられる。一方、阿井・亀嵩村では診療所の周辺に立地している。これは高齢者施設では車による送迎や職員による車での高齢者宅の訪問が多いため、道路環境を優先したことが要因として考えられる。

5.3 障害者施設

障害者施設は横田町に2ヶ所、三成村に1ヶ所、布施村に1ヶ所整備され、高齢者福祉施設よりも施設数は少ない。大半が集落中心付近に立地しているが、布施村のみ少し離れた場所に立地している。これはこの施設が町内で唯一の入所系施設であり、集落中心にある必要がないことが考えられる。

6. 業務系施設の分布

6.1 郵便局

業務系施設配置図を図6に示す。郵便局は明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置しており、全て集落中心付近に立地している。

6.2 銀行・JA



図7 交通系施設配置図

銀行は横田町に2ヶ所、三沢村に2ヶ所のみで、昭和の町村合併後の自治体に整備されている。それぞれ同じ2つの銀行の支店で、集落中心付近に立地している。JAは郵便局と同様に明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置しており、全て集落中心付近に立地している。

7. 交通系施設の分布

7.1 ガソリンスタンド・道の駅

交通系施設配置図を図7に示す。ガソリンスタンドは布施村以外の全ての明治の町村合併後の全ての自治体に1ヶ所ずつ位置している。八川村で3ヶ所と最も多いが、地域的な特徴は見られない。道の駅は八川・亀嵩村の2ヶ所に位置する。その内1ヶ所は松江道の開通に伴い開設された施設である。

7.2 鉄道駅・バス停

鉄道はJR木次線が北西から南東にのびており、鉄道駅は順に布施村(出雲八代駅)、三成村(出雲三成駅)、亀嵩村(亀嵩駅)、横田町(出雲横田駅)、八川村(八川・出雲坂根・三井野原駅)を通過する。町営バスは全部で8路線あり、全て旧横田町又は三成村の中心集落を經由している。そのため、他地区に向かう場合は旧横田町又は三成村に一度出る必要がある。また、横田町と三成村どちらも經由する路線は2路線のみである。

8. まとめ

本報では島根県奥出雲町を対象に公共公益施設の立地状況を明らかにした。得られた知見は以下の通りである。

1) 行政関連施設に関して、役場は昭和の合併後の町村単位であるが、その他の施設は明治の合併後の町村単位が基本となっている。駐在所は三成村が広域交番であるため、三沢・布施村には整備されていない。教育

関連施設も保育所等の児童福祉施設や小学校は明治の合併後の町村単位が基本であるが、中学校は昭和の合併後の町村単位、高校は平成の合併後の町村単位と段階的に拡大している。

2) 医療福祉施設に関して、医療施設は昭和の合併後の町村単位で整備された病院を中心に、診療所が明治の合併後の町村単位で整備されている。一方、駐在所と同様に三沢・布施村には整備されていない。高齢者施設及び障害者施設は比較的人口が集中する昭和の合併後の町村の集落中心付近に立地する傾向がみられた。

3) 業務系施設に関して、郵便局、JAは明治の合併後の町村単位で立地しているが、銀行のみ昭和の合併後の町村単位で立地している。交通系施設に関して、昭和の合併後の町村の中心集落を中心としている。

以上より、明治の合併後の町村を基準として中心集落としての役割を果たしていることが分かる。一方、昭和の合併後の中心集落である三成村から近い三沢・布施村は中心集落としての機能が弱いのにに対し、旧横田町に近い八川村では中心集落としての機能が強い特徴が見られた。これは八川の集落中心が旧横田町の集落中心と近い点が要因として考えられる。そのため、合併後の集落中心からの距離が中心集落の機能に影響を与えていると考えられる。

注釈

- 1) 施設情報はタウンページ&ハローページ島根県東部版(2017年4月発行)から収集した。
- 2) 公共公益施設は法的な定義はなく、公共施設は役場・道路・学校等公共事業により供給される施設で、公益施設は電気・ガス・水道等公益事業により供給される施設である。本論では、生活に必要な最低限の施設を公共公益施設として定義する。
- 3) 仕様書の施設分類は「公共施設更新費用推計ソフト仕様書」のp.10を参照されたい。
- 4) 本論では高齢者の生活を基本に考えたため、業務系施設として年金を引き出すことが可能な郵便局、銀行、JA(ATM)を抽出した。
- 5) 温泉村に関しては現在奥出雲町の区分ではないため、自治体数から除外している。
- 6) 横田町は昭和の合併前後どちらも存在するため、本論では明治の合併後を旧横田町、昭和の合併後を横田町と表記する。

参考文献

- 1) 谷森守他2名:多様性を内在する「小さな拠点」の俯瞰的整理の試み,都市住宅学会都市計画論文集, Vol.50.No.3, pp.1297-1302, 2015.10
- 2) 徳田光弘・友清貴和:歴史の変遷から見た行政圏域と施設・サービス圏域の関係,日本建築学会計画系論文集,第556号,pp.65-72, 2004.12

* 山口大学大学院理成科学研究科 助教・博士(工学)

** 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程

*** 山口大学大学院創成科学研究科 教授・工博

**** 米子工業高等専門学校 准教授・博士(工学)

* Assistant Prof., Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ. Dr.Eng

** Graduate Student, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.

*** Professor, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.

**** Associate Prof., National Institute of Technology, Yonago College. Dr.Eng